

専門書：皇室・皇族、歴史、法学、軍事研究者

皇族講話会資料選集

明治篇

監修・解説 堀口 修 (元大正大学文学部教授)

全三巻

この『皇族講話会資料選集』は、明治後期に皇族方へなされたご進講の資料をテーマ毎にまとめたものである。

第一巻は「帝国憲法講義」とし、穂積八束による講義録をおさめた。第二巻は陸海軍人による軍事関係の様々な談話録をおさめた。第三巻は、日本初の人類学者である坪井正五郎の「世界ノ住民」と題する談話録をおさめた。これは世界の人種につき学問的見地からなされたものである。

それぞれのテーマが皇族方にどのようにご進講され、語られているのか、いずれも興味が尽きない貴重な資料である。

クレス出版



『皇族講話会資料選集 明治篇』の刊行にあたって

元大正大学文学部教授 堀口 修

皇族講話会といわれてもほとんどの人には聞き慣れないものであろう。近代日本は天皇中心の国家を構築した。その中心に天皇と皇族により構成される皇室が存在する。その皇族の役割の中で最重要の役割として皇位継承がある。しかし役割は、それだけではない。皇族は、天皇を支えるためのいろいろな役割を担っていた。皇族は単なる飾りではない。天皇を支えるために常日頃から国家的・社会的な活動を重ねている。例えば男子皇族は、軍籍に就いて国民の目に見える形で活動している。

そして皇族は、その存在と役割に見合った資質を身に付ける必要があった。いや、積み重ねることが求められていたと言っても過言ではない。そのことは明治という時代が進み、日本が近代国家として欧米と対等の立場から国際社会で活動すればするほど強く意識され、かつ求められていく。そして皇族自身も国家・社会に貢献する存在であろうとした。またこのことは、天皇も強く意識していたものと思われる。

明治三十四（一九〇二）年一月三十一日、天皇から山階宮菊麿王、

華頂宮博恭王、梨本宮守正王、久邇宮邦彦王に対し「我が国の憲法」を研究するようにとの御沙汰がある。以後、穂積八束の帝国憲法や皇室典範、中村進午や有賀長雄の国際法・外交史などの講義、また日露戦争前後という時期にあるため、坂本俊篤、柴五郎、秋山真之、川島令次郎、佐藤鉄太郎など陸海軍人による実戦談や戦術論・技術論に関する談話が盛んになされている。さらには人類学者として著名な坪井正五郎も談話している。

本選集は、皇族講話会での講義・談話の中から重要、且つ興味深いものを選んで刊行するものである。彼らの講義・談話は、国家・社会・技術を科学的知識に基づいて理解するもので、皇族がいかにその習得に熱心であったかが伝わってくる。その積極性に唯々驚くばかりである。だが、資料の価値はそれだけではない。その醍醐味は、最先端の専門知識、豊富な実践経験がある同時代人の発言から、迫力ある近代化の現場の姿が伝わり、得も言われぬ臨場感溢れる世界を感得できることである。資料は、読み手のアプローチの仕方により異なる相貌をみせるともいわれる。読者諸賢の近代日本理解が深まる良き材料となればこれにすぐるものはない。

皇族講話会資料選集 内容紹介

第一巻 帝国憲法講義

皇族講話会に於ける『帝国憲法講義』
●法学博士 穂積八束／明治四十五（一九一三）年刊行／協同会

【前篇】緒論／大日本帝国憲法／第一章 天皇／第二章 臣民権利義務／第三章 帝国議會
【後篇】第三章 帝国議會／第四章 國務大臣及枢密顧問／第五章 司法／第六章 會計／第七章 補則／結論

第二巻 陸海軍人進講資料

陸海軍人進講資料

●陸海軍人／明治三十四（一九〇二）年、明治四十二（一九〇九）年実施

【陸軍関係】
一 陸軍騎兵大佐 渋谷在明「長途騎乗」

- 二 陸軍砲兵中佐 柴五郎「北京籠城」
 - 三 陸軍歩兵大尉 中川幸助「北清行進」
 - 四 陸軍歩兵大尉 奈良原忍「ヒリツピン群島」
 - 五 陸軍歩兵少佐 佐藤安之助「蒙古旅行談」
- 【海軍関係】
- 一 海軍大佐 坂本俊篤「軍事上ヨリ觀察セル海底電線ノ効用」
 - 二 海軍少将 坂本俊篤「潜水水艇」
 - 三 海軍少将 坂本俊篤「政略地理」
 - 四 海軍少将 坂本俊篤「格言ト兵術」
 - 五 海軍少佐 秋山真之「米西戦争」
 - 六 海軍中佐 黒井悌二郎「各国海軍ノ実力」
 - 七 海軍少佐 秋山真之「弘化三年米艦江戸湾口ニ渡来ノ因ニ就テ」
 - 八 海軍大佐 財部 彪「日露開戦ニ就キ海軍戦略上ノ概観」
 - 九 海軍大佐 川島令次郎「海軍ノ進歩」
 - 十 海軍大佐 佐藤鉄太郎「海戦ニ関スル史談」

第三巻 世界ノ住民

世界ノ住民

●理学博士 坪井正五郎／明治三十七（一九〇四）年、大正三（一九一四）年刊行

【概要】全十五回にわたりアイヌ、(日本)石器時代人、朝鮮人、ツングース族、満州種族、蒙古種族、台湾人、チベット人、マレー種族、ジャワ人、エスキモー人、パタゴニヤ人、エジプト人、ネグロ人、ホッテンントット人、ケプト人、スラブ人、ジプシーなど、世界各地に住む人種の起源、身体的な特色、家屋、衣服、食物、道具、娯楽など、生活全般を人類学の視点から幅広く紹介する。

海戦ニ関スル史談

明治四十年十一月十三日

海軍大佐 佐藤鉄太郎

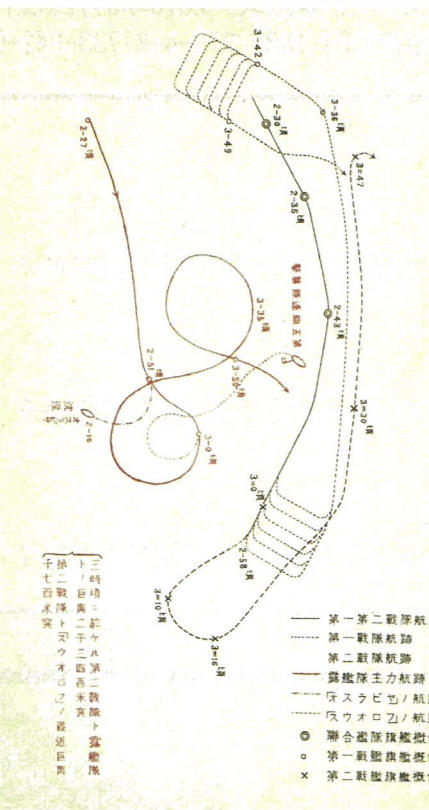
今日ハ、海戦ニ關スル歴史上ノ御話ヲ申上マスルガ、其内デ、獨斷專行ト謂フコトニ就キマシテ、御機嫌ヲ伺フ積リデゴザイマス。元來獨斷專行ト申シマスルハ、作戰上最モ必要ナルコトデゴザイマシテ、餘程慎重ニ致シマセスト、之ガ爲メ大敗ヲ招キマシテ、不名譽ナル結果ヲ來スコトガ多イノデゴザイマス、即チ此點ヨリ考ヘマスレバ、成ル可ク此ノ如キ變則ナル事ハ、致サヌ方ガ宜カラウト思ヒマスルガ、敵情ニ關スル報告ガ精確デアリマセヌ以上ハ、如何イダシマシテモ、變則トハ申シナガラ、獨斷專行ナシ

マダ日本版圖内ニモ様々違ツタ者ガ住ンデ居リマスノ、今日ハ北ノ方ノ北海道ノ「アイヌ」ノコトヲ御話シ致ス考ヘデ居リマス。

北海道ノ「アイヌ」ハ、通常蝦夷ト唱ヘテ居リマス。歴史デ云フ蝦夷ト云フノトハ、能ク合ツテ居ルカドウカ甚ダ疑ハシイ蝦夷ト云フハ、廣イ名稱デ「アイヌ」ト云フハ、其ノ一部分デアツタカモ知レマセン。

此ノ「アイヌ」ト云フモノハ、僅カニ一萬七千シカ居リマセン。モトハ日本本州ニモ大分擴ツタモノト見エテ、彼地此地ノ地名ニ「アイヌ」ノ言葉ガ其儘存シテ居リマス。例セバ「ナイ」ト云フ言葉「院」下カ庄内ト云フ「ナイ」ト云フ言葉ガ北海道ノ地名ニアルノト同ジデサウ云フ地名ニナルト日本ノ言葉デ説明ノ附カヌ

日本海海戦



第二巻 『陸海軍人進講資料』より海軍大佐 佐藤鉄太郎「海戦ニ関スル史談」



皇族講話会資料選集 明治篇 堀口 修 監修・解説 (すべて税別)

第一巻 帝国憲法講義	定価24,000円	ISBN 978-4-86670-070-0
第二巻 陸海軍人進講資料	定価26,000円	ISBN 978-4-86670-071-7
第三巻 世界ノ住民	定価17,000円	ISBN 978-4-86670-072-4
	揃定価67,000円	ISBN 978-4-86670-073-1

A5判／上製函入／クロス装／C3321／2019年 8月25日刊行

クレス出版の大好評既刊書 (すべて税別)

皇室皇族聖鑑 全3巻

堀口 修 監修

(昭和8年「皇室皇族聖鑑刊行会」版)

本書は、明治～昭和戦前期までの皇室・皇族や、臣籍降下した皇族まで詳細な情報を網羅している。天皇の代替わりや皇位継承のあり方をめぐる問題が注目される今現在、近代の皇室・皇族の真実の姿を、収録された当時の貴重な写真・絵などの資料とともに紐解くことができる他に類をみない文献である。

B5判／C3323／上製函入／2011年7月25日刊
揃定価80,000円 ISBN 978-4-87733-597-7

天皇・幕府の料理集 全3巻

山下光雄・野口孝則 監修 山下光雄 解説

今日の和食文化を築いた重要資料として、宮内省の膳職に限って、重要書を集成。秋山徳藏の「仏蘭西料理全書」等貴重書も復刻。

第1巻 日本料理法大成

定価36,000円 ISBN 978-4-87733-939-5

第2巻 仏蘭西料理全書〔上下〕

定価52,000円 ISBN 978-4-87733-940-1

第3巻 日本支那西洋料理大辞典

附録 内膳司濱島家文書

定価32,000円 ISBN 978-4-87733-941-8

A5判／C3377／上製函入／2016年5月25日刊

揃定価120,000円 ISBN 978-4-87733-942-5

令和元号特集

日本年表選集 第五巻 帝諡考、元号考

A5判／クロス装／上製函入／2005年5月25日刊 定価12,500円 ISBN 978-4-87733-269-3

森鷗外が本名・林太郎で執筆、大化から大正まで元号を一覧する。

萬葉集歌人研究叢書 2 旅人と憶良

A5判／C3392／上製函入／2004年4月25日刊

定価 5,800円 ISBN 978-4-87733-209-9

令和の出典となった「梅花歌三十二首并序」を収録

地名研究資料集 ⑤ 萬葉集

A5判／C3325／上製函入／2003年5月25日刊

定価22,000円 ISBN 978-4-87733-188-7

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名